よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

三七号
2014.2

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：２０１４年２月１日
〒781－5310
高知県香南市赤岡町５３８
Tel.Fax ０８８７－５７－７１１７
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

シリーズ 絵金百話

第三十六話　敵に寄せる心

INFORMATION

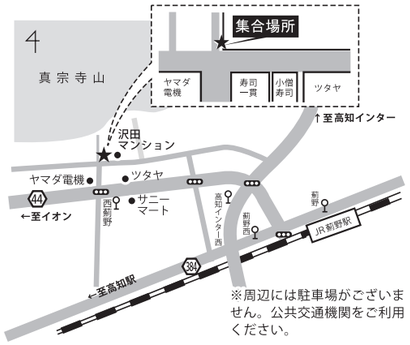
絵金墓参り参加者募集

絵金は妻と共に、高知市・真宗寺山の夫婦墓にひっそりと眠っています。来る命日、例の墓参りを行います。絵金さんを身近に感じられるこの機会に、ぜひお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加くださいませ。

平成25年 3月8日(土) 14:00 現地集合

集合場所：高知市薊野 真宗寺山麓
定　　員：20名　所要 約1時間・参加無料
お申込み：絵金蔵まで、電話・fax または e-mail でお申し込みください。
［電話・fax］0887-57-7117（月曜休館）
［e-mail］ekingura@mxi.netwave.or.jp　◎小雨決行

※20分ほど山道を歩きます。すべりやすく、急な坂道もございます。動きやすい服装でお越しください。



※周辺には駐車場がございません。公共交通機関をご利用ください。

＜集合場所までの交通機関＞
真宗寺山墓所：高知市薊野北町１丁目13番地
○バス「西薊野（にしあぞうの）」バス停下車（サニーマート前）　集合場所まで徒歩約１分
○ＪＲ「薊野（あぞうの）」下車（ＪＲ上り線「高知」駅の次）　集合場所まで徒歩約15分

楽しく飲みながら寄付できるしくみ
寄付ぎふと

ただ今、高知県で活動しているNPOや社会貢献に取り組む団体への寄付金を含んだ飲食メニューを飲食店２店舗が提供して下さっています。
ぜひ、各お店でおいしい料理やお酒を楽しみながら、ＮＰＯや社会貢献に取り組む団体にご寄付をお願いします！

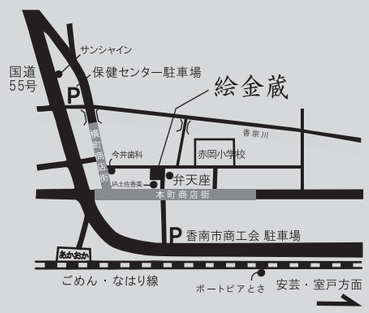
また、この活動にご賛同いただける店舗も募集されています。 詳しくは、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先
高知市市民活動サポートセンター
電話：088-820-1540

バール・バッフォーネ
高知市帯屋町1-2-10 三翠ビル１Ｆ
電話番号：088-822-3884
寄付付きメニュー：インドワイン、ジェノベーゼ
寄付金額：各100円
寄付先：ＮＰＯ高知市民会議（とさっ子タウン）

八金～やがね～
高知県高知市帯屋町１－２－１５植野ビル２Ｆ
電話番号：088-824-8895
寄付付きメニュー：ニラたっぷりたまご焼き、だし巻きたまご
寄付金額：各100円
寄付先：2013年度は絵金蔵運営委員会を含む６団体

【絵金蔵】
開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時半まで）
観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
（15名以上の団体は各50円引き）
休館日
毎週月曜日
（月曜が祝日の場合は火曜）
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵（通称・絵金）。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

絵金蔵の三つの使命
年に一度：絵金の文化を守るため
伝承：次の世代へ伝えるため
縁結び：地域を超えて世代を超えて

EKINGURA NEWS

「展示室をうんと楽しむ強い味方！」

絵金屏風解説アプリ登場

高知工業高等専門学校、都市デザイン工学科５年・長瀬淳さんが、昨年４月から開発していたアイパットを用いた解説アプリができました。絵金蔵で何度も協議を重ね、複雑な歌舞伎のストーリーを分かりやすく、また年配の方が闇の展示室でも見やすいよう工夫してくれています。音声もワンクリックで聞けるのでとっても便利。
このアプリは後輩に引き継がれ、順次バージョンアップされていく予定です。絵金蔵にお越しの際はぜひお試しのうえ、今後の参考にご意見をいただければ幸いです。

絵金蔵に収蔵する芝居絵屏風 23 点全ての解説が手元でご覧いただけます。貸出１台、無料（入館料は要）。受付にてお申付け下さい。

「新プランできました。」

地元のおすすめ町歩き

絵金蔵にて、無料配布中！

赤岡の町案内リーフレット「地元のおすすめ町歩き」の第２冊、３冊目ができました。性別や世代、滞在時間など、お客様に合わせて、赤岡を知り尽くした地元民がおすすめのおいしい情報をお届けします。ぜひご利用下さい。

掘り出し物にほくほく
レトロな雑貨たんねコース　［所要約２時間、案内人 30 代女性］

ほっと一息、女子におすすめ
スイーツ＆ビューティーコース　［所要約３時間、案内人 50 代女性］

「オンリーワンが続々…」

オリジナルチャリティグッズ

絵金蔵にご寄付いただいた着物の生地やボタンなどをボランティアと一緒に新しいクッズに生まれ変わらせています。売上はすべて「赤岡絵金屏風保存会」に寄付、屏風絵の修復・保存活動に充てています。屏風絵がそのままテレホンカードになった現品限りのレアグッズも販売中。
その他、季節ごとに商品を入れ替えています。ショップのみのご利用も歓迎、ちょっと懐かしくて新しい、チャリティグッズをのぞきにいらしてくださいね！

ネックウォーマー
800 円

レトロボタングッズ
各 200 円

絵金テレホンカード
1500 円（各２枚入り）

絵金百話

第三十六話　敵に寄せる心

源平魁躑躅（げんぺいさきがけつつじ）　扇屋熊谷（おうぎやくまがい）

〈 概　要 〉

『源平魁躑躅』は時代物の人形浄瑠璃として享保15年（1730）大阪・竹本座にて初演されました。原題は『須磨都源平躑躅（すまのみやこげんぺいつつじ）』、歌舞伎において『源平魁躑躅』と改題されました。作者は文耕堂（ぶんこうどう）・長谷川千四（はせがわせんし）の二人。『平家物語』や『源平盛衰記』を題材とし、謡曲『忠度（ただのり）』ほか様々な先行作が元となっています。本作もまた、熊谷直実（くまがいなおざね）と平敦盛（たいらのあつもり）の悲話で名高く、現代盛んに上演される『一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）』（本誌第28号参照）の先行作となりました。

時は平安末期、平敦盛は右大弁重虎（うだいべんしげとら）の妹・品照姫（しなてるひめ）と婚約した印に大切な青葉の笛を送りますが、後白河法皇から源氏に平家追討の院宣が下され、平家の旗色が悪くなってくると重虎は一方的に婚約を破棄し、家臣阿根輪平次（あねわへいじ）のもとへ嫁がせようとします。品照姫は敦盛を慕い阿根輪に従わぬため、恋の遺恨もからんで阿根輪は敦盛詮議に躍起となります。一方、五条の扇屋若狭（おうぎやわかさ）は恩義ある敦盛を女性としてかくまっていましたが、ついに落人詮議を受けることとなり、扇を求めにやってきた熊谷直実がその場で敦盛、阿根輪らと対峙することになります。

都落ちしてゆく平家の悲劇と、敵でありながらその悲劇に心を寄せる源氏の侍たち。特に勇猛さと情け深さを合わせ持つ熊谷直実の役どころが魅力です。本作は現代でも上演数が少ない演目ですが、200点以上を数える土佐芝居絵屏風のなかでも、今のところ1点が確認されるのみとなっています。香南市（こうなんし）・浅上王子宮（あさがみおうじぐう）の夏祭りで、拝殿風の絵馬台に掲げられた絵金派の作品を、今回もどうぞお楽しみ下さい。

源平魁躑躅
役者の言葉

熊谷直実

なかなか気のいい、楽しめる役です。例えば、深編笠をかぶったまま、ジッと他の人の芝居を見ている間の腹の芝居、そして、姉輪を突き退けて初めて笠をとって顔を見せる、その時の「間」の芝居の味、これは役者として、一種の冥利とも云いたい程楽しめるもの。

尾上松緑　一九五九年

小萩（実は平敦盛）

前から余り敦盛を見せると「たちまち変わる」でキッパリしないでしょ。そこのかねあいが難しいですね。…熊谷と姉輪のやりとりの間、ああいう所は何もしていないけれど、気を抜いちゃあいけないのでくたびれるのですよ。

尾上梅幸　一九六九年

阿根輪（姉輪）

この役はしていて面白い役ですよ。何しろ、出て来て勝手なことを云い、勝手に引っ込んで行く…得な役だと云えましょう。

市村羽左衛門　一九五九年

参考：鎌倉惠子「『源平魁躑躅』の上演をめぐって―上演希少演目に関する調査―」（『芸能の化学』30号 東京文化財研究所 平成15年3月）

源平魁躑躅
祭りの華
―浅上王子宮の絵馬台―

『源平魁躑躅』を所蔵する香南市・浅上王子宮では、長らく夏祭りでの展示が途絶えていましたが、平成二十五年六月、氏子により、かつて展示に使っていた「絵馬台」の一部が見つかりました。

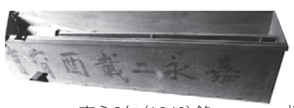
襖のような形式の枠貼に描かれた『源平魁躑躅』のもう片面には『仮名手本忠臣蔵』が描かれており、手すりのついた大きな台に、両面を鑑賞できるよう二点ずつはめこまれました。外題を記した両脇の横襖、欄間のような彫り物や、欄干の一部なども華やかだった当時の面影を伝えています。

参考：朝倉神社絵馬台（高知市）

もう片面に描かれた『仮名手本忠臣蔵　扇ヶ谷館』

台の両側面にはめ込まれた芝居絵題名を記した横襖。「一谷須磨之浦□/熊谷別之場」

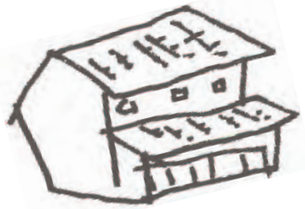
欄干の擬宝珠（ぎぼし）



嘉永2年（1849）銘
絵馬台保存箱

挿し棒の付いた押し絵人形。
飾りとして手すりに付けたそうです。

昔赤岡 & 今赤岡
Part Ⅲ 「お遍路さんが通る町」編



江戸時代から県東部の玄関口であり、参勤交代の宿場町として栄えた赤岡。絵金屏風が並ぶ通りは、今もお遍路さんが行き交う古い街道です。今年は四国霊場開創1200年を迎える記念の年、資料や伝承が伝える赤岡周辺地域と遍路の関わりについてご紹介します。

松原ノ面白キ所ヲ過テ赤岡ト云ニ出、此ニハ思ノ外ニ大ナル身上ノ町人ドモ居所也。寺モ有。夫ヨリ一里斗往テ大日寺至ル。神峰ヨリ是マデ九里ナリ。

澄禅『四国遍路日記』
承応二年（一六五三）

第27番札所「神峯寺（こうのみねじ）」を出たお遍路さんは、神峯山を下り、海沿いの道約30kmを歩いて赤岡の旧道（商店街）を通り、約5km先の第28番札所「大日寺（だいにち）」を目指します。

江戸初期の遍路の様子をよく伝える『四国遍路日記』には、大きな商家が並ぶ赤岡の町の様子が記され、『四国中道筋日記』には赤岡町横町に現存する「長木屋」（現在のおっこう屋・タオ）で接待を受けたことが記されています。

厳しい道中を巡る人、受け入れる人…長い歴史を経て、遍路文化は今も赤岡に息づいています。

赤岡の漁師の話

赤岡には遍路が長く滞在した。理由の一つは、網小屋があったこと。ここでは、塩分や腐敗物を取り除くため、漁師が直径2m近くある鉄の釜で網を煮た。その際たくさんの種火が出たので、食事を作り、冬は暖を取ることができた。また夏はこの小屋で南風の吹き込みを防いだ。地元の人は、貧しくともお遍路さんには特別の思いをかけ、お米を接待することもあった。

参考：高知県 林業振興・環境部 環境共生課HP
土佐の自然「赤岡町の漁業今昔」

赤岡町高見に残る遍路石

赤岡商人が神峯山のふもとに立てた遍路石

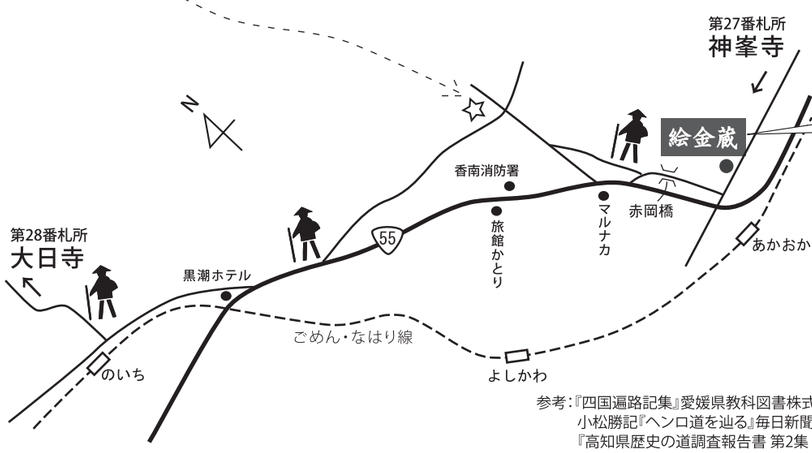
左神峯道
施主赤岡町／玉屋久兵衛
元治二年乙丑年（一八六五）正（月）
是ヨリ赤岡橋迄六里（約二三㎞）

従是大日寺へ四十丁
寛政八丙辰（一七九六）八月廿一日
橋本重吉立之
（指差し・弘法大師坐像）
施主四国中□□　へう
文化七午天（一八一〇）春立ル
世話人徳島□□
願主照□（馬袋照蓮）

夜須の遍路墓

香南市夜須町には、地域の人々が建てた遍路墓21基が残されている。18世紀中頃から19世紀中頃にかけてつくられ、人名や「豊後國海部郡」「備後御調郡」といった出身地も刻まれている。墓石のそばには大師信仰のグループが明治9年に建てた「集霊塔」があり、お参りする人もいなかった複数の遍路墓を1カ所に集めたと見られている。

参考：高知新聞（平成26年1月10日）



絵金蔵ボランティアが歩きお遍路さんにお接待で手作りしているフクロウの根付。「苦労をしないよう」との気持ちを込めて差し上げています。

四国霊場開創 1200 年関連情報はこちら↓
四国八十八ヶ所霊場会公式ＨＰ
http://www.88shikokuhenro.jp/
このほか、四国各県ＨＰの行事案内等で各県の展覧会情報がご覧になれます。

参考：『四国遍路記集』愛媛県教科図書株式会社 平成9年5月
小松勝記『ヘンロ道を辿る』毎日新聞高知支局　平成19年4月
『高知県歴史の道調査報告書 第2集 ヘンロ道』高知県教育委員会事務局文化財課　平成22年3月

絵金を、読む。

源平魁躑躅　扇屋熊谷

枠貼(二面)/紙本著色/134.8×171.0㎝
香南市・浅上王子宮所蔵

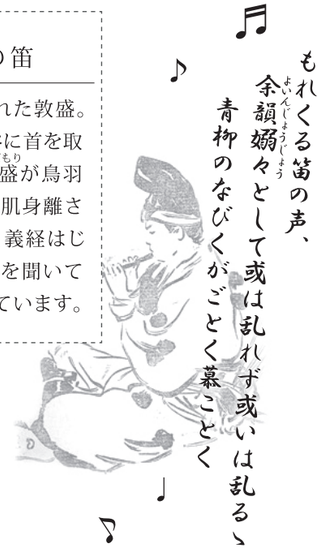
敦盛と熊谷

一ノ谷の合戦で、海上の敦盛に対し、敵に後ろを見せるのかと陣扇で招く熊谷。「扇屋熊谷」の場面は、この『平家物語』で名高い敦盛と熊谷の一騎打ちの伏線となっており、画面左の海を描いた背景もこの後の２人の運命を暗示しています。また、後に制作された『一谷嫩軍記』では主君義経の示唆により、自らの息子を敦盛の身替りとする熊谷ですが、ここでは反対に、扇屋に娘の身替りを暗に迫る役どころとなっています。

上下とも
絵金筆白描画「敦盛」「熊谷」
（香南市個人蔵）

敦盛と青葉の笛

笛の名手として知られた敦盛。『平家物語』では熊谷に首を取られる際も、祖父・忠盛が鳥羽院より賜った名品を肌身離さず持っていたとされ、義経はじめ源氏の侍たちも話を聞いて涙を流したと記されています。



■ 我こそは熊谷の次郎直実。

深編笠をずっとかぶったままの侍。阿根輪の狼藉をたしなめ、笠を脱げと迫られたところで**「我こそ武蔵の国の住人、私の党の旗頭、熊谷次郎直実」**と名乗り出る、この場面の見せ場です。

■ 敦盛さまに もしものことあれば…

小萩が恋する敦盛であると気づき、その身に何か起きれば、自分は尼になると母に語っていた扇屋の娘・桂子。父の苦悩を見て敦盛の髪型をまね、自分を身替りにと首を差し伸べます。
犠牲となった後、敦盛は桂子を妻にすると誓い、その歯をおはぐろの代わりに墨で染め、想いに応えたのでした。

■ いよいよ女に身をなして。

おはぐろに薄化粧し、娘に扮した敦盛。**「ヤア者ども此女が面を見よ、いで懐を吟味せん」**と袖口から手を差し込む阿根輪に、ここで見つかっては自分の恥、また扇屋に迷惑を掛けてしまうと、ますます女の風情に…

■ 思ひよらぬ御難題。

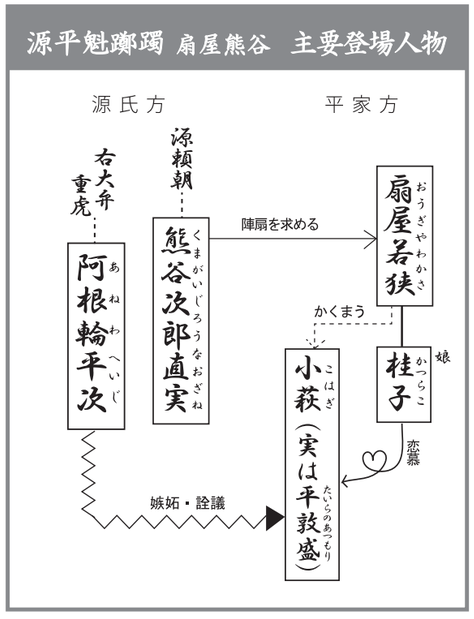
敦盛が青葉の笛を吹き出し、肝を冷やしたところへ案の定、音を聞きつけた阿根輪が現れます。**「左様の貴人を隠し置くべき所はない」**と、必死で敦盛を守る扇屋若狭。

■ 聞くに阿根輪もびっくり！

熊谷の名を聞き驚く阿根輪。しかし、**「見赦と鎌倉殿（源頼朝）御諚ばし候か。手ぬるし手ぬるし」**と、今度は熊谷にいっそう詮議を迫ります。

笠取らず、名を明かさぬも必竟
そちの為なれ共、所望ならば何より
安しと笠ひん脱ぎ…

源平魁躑躅 扇屋熊谷　主要登場人物



― あらすじ ―

扇屋若狭の店では、平敦盛を扇の折子・小萩としてかくまっている。そこへ浪人姿の客が現れ、陣扇を所望する。折しも奥から敦盛の吹く見事な笛の音が響き、平家落人の詮議に阿根輪平次がやってくる。阿根輪は折子たちが怪しいとにらみ、一人ずつ改め始める。小萩の番となり、いよいよ事が露見しそうになったところへ、陣扇を求めた侍・実は武勇名高い源頼朝の家臣・熊谷直実が割って入り、小萩を救った。

しかしなお阿根輪は詮議の手をゆるめず、熊谷に食ってかかる。熊谷は奥に敦盛を隠しているのなら早く差し出せ、と暗に扇屋に身替りを用意するようほのめかす。追い詰められた扇屋は敦盛に恋をしていた娘・桂子の首を打って差し出す。

阿根輪が去った後、敦盛は桂子の犠牲を嘆き、来世までも妻とすると誓う。熊谷と敦盛は改めて対面し、扇屋は陣扇を二人それぞれに渡す。

〔参考文献〕
『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集成10 須磨都源平躑躅』2007年7月 玉川大学出版部
『歌舞伎事典』平凡社　1993年4月
『歌舞伎登場人物事典』白水社　2006年5月
『絵金 極彩の闇』grambooks 2012年10月
『絵金 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館　1996年